

【沖縄県のアーツマネジメント人材育成の取組】

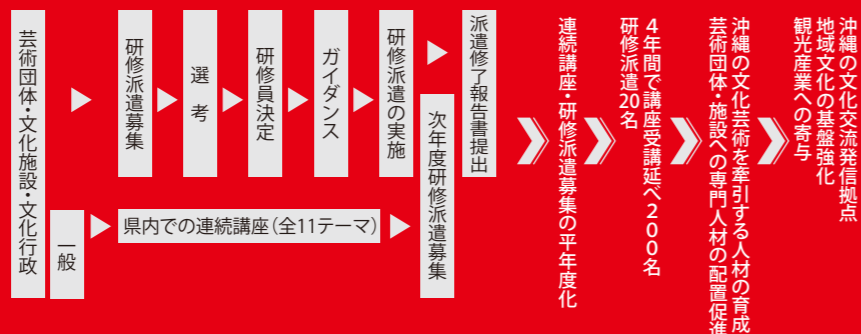
沖縄では、県内に存在する多様な豊かな文化芸術資源を活用した文化芸術活動をさらに活発にし、文化産業を創出し、観光産業にも寄与することが課題となっています。この課題に対する施策のひとつとして、沖縄県は県内の文化芸術活動を運営面から支える人材の育成に取組みます。

この事業は、アーツマネジメントの基本的な考え方や事業実施の過程や要素を体系的に学ぶ「アーツマネジメント連続講座」と、県内外の施設・団体等での実践的な研修を行う

「アーツマネジメント研修派遣」で構成されます。この事業を活用し、沖縄の文化芸術を支え、ひろめていく力を身につけましょう。

※この取組について詳しくは、沖縄県または芸団協（本事業の事務局）のウェブサイトをご覧ください。

沖縄県 <http://www.pref.okinawa.jp/>
芸団協 <http://www.geidankyo.or.jp/12kaden/>



芸術をつくり、つなぎ、ひろげ、すべての人々のものに

アーツマネジメント 連続講座2014 6.9.日 ~10.7.日

主催: 沖縄県 (アーツマネージャー育成事業)
事務局: 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]
協力: 公益財団法人沖縄県文化振興会
一般社団法人沖縄県芸能関係協議会 [沖芸連]

【参加費】
無料
(要申込み)

沖縄の組踊、琉球舞踊、音楽、演劇などのマネジメントを学び、
盛り上げたいと考えている方々大集合!



お問い合わせ
(内容について)

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]
Tel: 03-5909-3060
E-mail: okinawa@geidankyo.or.jp
※講座の詳細は、芸団協ウェブサイトでもご確認いただけます。 <http://www.geidankyo.or.jp/12kaden/>

お申し込み

下記の必要事項をご明記の上、
Fax、Eメールのいずれかの方法でお申し込みください。
①氏名、②フリガナ、③ご所属(団体・館名)、④担当職務・役職、
⑤ご住所、⑥tel、⑦fax、⑧E-mail、⑨希望する講座番号
【申込み先】 E-mail: okinawa@geidankyo.or.jp
Fax: 098-887-1334 [沖芸連]
※すべての講座を受講される方を優先します。
※複数人のお申込みは、申込用紙を複製してお一人ずつご記入ください。またはメールで申込みの場合は、各人の担当職務、参加希望の講座番号がわかるように明記してください。
※会場の都合上、申込み多数などによりご希望に添えない場合はその旨ご連絡いたします。
※当日は、記録撮影・録画、取材等を行います。
※頂戴した個人情報は、「沖縄県アーツマネージャー育成事業」に関するご案内等に使用いたします。

Fax : 098-887-1334 [沖芸連] での申し込み用紙

フリガナ	所属 (団体・館名)			
氏名	担当職務			
住所				
Tel	Fax			
E-mail				
希望の回に ☑を してください	パートⅠ	<input type="checkbox"/> 講座1 (6/9・10)	<input type="checkbox"/> 講座2 (6/16・17)	<input type="checkbox"/> 講座3 (6/23・24)
		<input type="checkbox"/> 講座4 (7/7・8)	<input type="checkbox"/> 講座5 (7/14・15)	<input type="checkbox"/> 講座6 (8/1・2)
	パートⅡ	<input type="checkbox"/> 講座7 (8/25・26)	<input type="checkbox"/> 講座8 (9/8・9)	<input type="checkbox"/> 講座9 (9/22・23)
		<input type="checkbox"/> 講座10 (10/7)		
	<input type="checkbox"/> 特別講座 (9/1・2)			
	<input type="checkbox"/> すべて受講			

沖縄県が平成26年度から4年間にわたって取組む人材育成事業の第一歩がスタートします。

文化芸術団体や劇場・音楽堂等の文化施設、文化行政などで文化芸術にかかわる実務者の方々、これから文化芸術のマネジメントに携わりたいと考えている方々に向けて、「アーツマネジメント連続講座」を開催します。

第一線で活躍する講師陣の講義と意見交換を通して、「芸術をつくり、つなぎ、ひろげていく」ためのアーツマネジメントの基本的な考え方、その真髓と実務スキルについて学び考えます。

講座 part I 文化芸術活動を展開する

文化芸術の社会的な価値はどこにあるのでしょうか。その基本を考え、価値を創造すること、事業を企画し、作品をつくり、人々につなぎ、ひろめていくためのプロセス、広報・宣伝など観客づくりにどのような取り組みが行われるのか。その視点を学び考えます。

①文化芸術の価値と文化政策、芸術活動の経済的な成立と資金調達

文化芸術の社会的な価値、その経済的特性を考え、国や民間による支援の根拠、文化芸術振興基本法などの文化政策のあり方について学び考えます。

【日時】6月9日(月)・10日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄産業支援センター**

【講師】**大石修治**(神奈川フィルハーモニー管弦楽団専務理事) ヤマハ(株)広報部在任中から、大人の音楽文化向上をめざした「男たちのピアノパーティ」等の斬新な音楽普及イベントをプロデュース。ヤマハ横浜社長を経て、2006年に神奈川フィルハーモニー管弦楽団常務理事兼事務局長に就任。2009年より現職。定期演奏会をはじめ、ワークショップや慰問コンサートなど年間約160回の演奏会を開催。

石田麻子(昭和音楽大学オペラ研究所教授／(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー) 国内外の歌劇場や芸術祭の組織運営研究、およびオペラ公演開催からみた舞台芸術政策に関する研究活動を展開。2011年より日本芸術文化振興会プログラムオフィサー。単著に『日本のオペラ年鑑』編集委員(文化庁委託)、共著に『クラシック・コンサート制作の基礎知識』(日本クラシック音楽事業協会)。

講座 part II 芸術組織を持続的に運営する

事業を持続的に行っていくためにはその主体となる組織の運営が欠かせません。組織運営の基本、事業計画と予算、会計基礎、著作権をはじめとするさまざまな法律、安全管理について学び实际的に考えます。

②芸術組織の基本とその役割——事業計画と予算をつくる

実演芸術の成立には役割の異なる組織が多様に存在し、人々に豊かな享受機会を作り出しています。法人格、定款と意思決定など組織成立の基本、組織理念に基づく長期方針、年間計画の作成、着実な予算編成などの考え方を学びます。

【日時】8月25日(月)・26日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄産業支援センター**

【講師】**大和 滋**((公社)日本芸能実演家団体協議会参与) 芸団協主催公演の制作担当、芸能に関する基本的な諸問題、文化政策の調査研究、芸術文化振興基金や



③事業企画をつくる

文化芸術事業を展開するに当たって、劇場や芸術団体は、その理念に基づいて、多彩で多様な企画を打ち出します。その企画についての考え方を学びます。

【日時】6月16日(月)・17日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄産業支援センター**

【講師】**矢作勝義**(穂の国とよはし芸術劇場事業制作チーフ) 東京都立大学在学中から演劇活動を始める。1998年より世田谷パブリックシアター勤務。2012年より公益財団法人豊橋文化振興財団に勤務し、2013年4月に開館した穂の国とよはし芸術劇場PLATの事業制作チーフに就任。愛知大学文学部現代文化コースメディア芸術専攻にて非常勤講師を務める。

中村雅之(横浜能楽堂館長) 横浜市芸術文化振興財団理事、明治大学大学院兼任講師(文化マネジメント)、東京芸術文化評議会専門委員を兼任。能・琉球芸能のプロデュースを数多く手掛ける。2008年には、プロデュース公演が文化庁芸術祭優秀賞を受賞。著書に『英訳付き1冊でわかる日本の古典芸能』(淡交社)など。

文化芸術振興基本法の提言活動に携わる。現在、私的録音補償金管理協会事務局等を兼任。

城後一朗((公社)日本舞踊協会事務局次長) 早稲田大学第一文学部卒業後、日本舞踊協会事務局入局。協会主催の日本舞踊公演や文化庁学校巡回公演の制作などに携わる。2012年には東京文化会館との共同制作「日本舞踊×オーケストラ公演」を行うなど、様々な活動に取組む。

西川信廣(演出家／文学座所属) 文学座附属演劇研究所16期生、1981年座員となる。1986年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてイギリスに1年間滞在。帰国後は文学座を中心に商業演劇から小劇場までストリートプレイを中心に幅広く活動。近年は、地域演劇や演劇教育にも力を入れている。公益社団法人日本劇団協議会会長。東京藝術大学客員教授。

④会計の基礎——報告・管理・税務

組織は、収入不足を招くと存続の危機に直面するため、日々の会計処理を的確に実施し、組織の財政を正確に把握する必要があります。そのための会計の基礎を学びます。

【日時】9月8日(月)・9日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄産業支援センター**

【講師】**田坂 公**(久留米大学商学部教授) 中央大学商学部卒業後、博士号取得。専門は会計学。2011年より現職。現在、公認会計士試験委員(管理会計論)、資格の学校TAC等で簿記講座、公認会計士講座の講師を歴任。『資格試験の神サマ』(1997年 講談社)、『日本紳士録』(2002年 交詢社)に掲載される。「会計を通じて人を幸せにする」をモットーに、全国で出前講義を行う。

⑤観客をつくり出す——広報・宣伝など関係の構築

事業企画の実現は、そこに観客がいて成立します。観客は、チラシなどを通しての宣伝、さまざまなメディアを通しての広報、さらに日常的な口コミ、社会との関係づくりの中で生まれます。その視点を学び考えます。

【日時】6月23日(月)・24日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄県市町村自治会館**

【講師】**森岡めぐみ**(いずみホール企画部課長) 1989年開館準備室に入りレセプション・マネージャー、営業、宣伝を経て広報、情報誌編集、文化行政を担当。『クラシック・コンサート制作の基礎知識』(日本クラシック音楽事業協会)の「広報・宣伝」を執筆。音楽芸術マネジメント学会、公文協、地域創造の研修会で講師を務めた。大阪日日新聞でコラム「ステージア」を隔週連載中。

衛 紀生(可児市文化創造センター館長兼劇場総監督) 文化庁文化審議会専門部会委員、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞審査員、芸術文化振興基金地域文化活動専門委員、長岡芸術文化振興財団アドバイザー。主な著書に『芸術文化行政と地域社会』『これからの芸術文化政策』『21世紀のアートマネジメント』『地域に生きる劇場』。

⑥芸術団体、劇場等とのネットワークづくり

企画立案、制作、観客づくりなど事業を進めていくうえで、芸術団体、劇場などの芸術関係者間の人的つながりは重要な要素です。共同制作、巡回公演、本拠地提携などの事業連携の事例と、その視点を学び考えます。

【日時】7月7日(月)・8日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄産業支援センター**

【講師】**漢 幸雄**(あさひサンライズホール館長／シアターネットかんげき／土別市教育委員会地域教育課長) あさひサンライズホールの計画から係わり1993年の開館から運営を担当、2012年館長に就任。地方の小ホールとして市民劇の制作、学校との連携事業も積極的に展開。また、2001年に道内の劇場等で結成する「シアターネットかんげき」の立ち上げに参加し、2002年より代表を務める。北海道文化財団文化活動アドバイザーなど。

岩永智博((公財)日本舞台芸術振興会営業部長) 2002年より公益財団法人日本舞台芸術振興会(NBS)に勤務。現在は営業部部长として主催公演の票券管理から協賛や営業販売、全国ツアーのセールス、ファンドレイジング等の営業すべてを取り仕切るほか、企画運営や会場業務、制作面にも携わる。また、全国の劇場の各種助成のコンサルタントとしてサポートに力を入れている。

仲盛康治(国立劇場おきなわ事業課長) 県内の中学校で教諭、教師、指導主事として27年間勤務の後、現職。教育行政において学校教育で培った実践に加え、文化・芸術のすばらしさに触れ、「那覇センセイション」等の斬新でユニークな学社融合教育に取組む。沖縄伝統芸能の継承・創造・発展とともに文化・観光・教育などのコラボレーション等の有効性を考えている。

⑦芸術活動と法務——契約と著作権、公演をめぐる法律

文化芸術事業の実施には、出演をはじめさまざまな取引など契約行為が必要になります。また自らの創造を護り、他人の創造を侵害し訴訟に直面したりしないために、契約と著作権の基礎、さらに公演活動に関わる法律を学びます。

【日時】9月22日(月)・23日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄産業支援センター**

【講師】**桑野雄一郎**(骨董通り法律事務所 弁護士／鳥根大学法科大学院教授) 早稲田大学法学部卒業、1993年弁護士登録。2003年に骨董通り法律事務所設立。2003年より東京藝術大学・同大学院講師。主要著書に『著作権法コメント』(レクシスネクシス・ジャパン〔共著〕)、『出版・マンガビジネスの著作権』(社)著作権情報センター)、『舞台芸術と法律ハンドブック』(芸団協出版部〔編著〕)。

増山 周((公社)日本芸能実演家団体協議会事務局長) 京都大学と筑波大学大学院にて経済学及び法学を学び、法学修士。東アジア諸国の著作権法制、や実演家の保護、民間伝承の保護等について研究。国際著作権法学会ALAI (Association Littéraire et Artistique Internationale) 日本支部理事。

⑧公演を制作する——企画実現へのプロセス

立案された企画を実現するための予算、プロセス、創作委嘱、芸術チーム編成とデザイン、プランニング、キャスティング、舞台チーム編成、稽古、道具等の発注、劇場入りと仕込み、公演、撤収までの公演制作の事例を学び考えます。

【日時】7月14日(月)・15日(火) 18:30～20:30

【会場】**沖縄産業支援センター**

【講師】**乾 美宇**((株)ジャパン・アーツ海外事業部部长) 東京藝術大学実理科卒業。学生時代にオペラ制作を体験したのを機に、音楽業界に興味を持ち、在学中から卒業後にかけて舞台招聘企画の制作助手アルバイトで現場経験を積む。現在は海外招聘の企画プランニングを担当するほか、国内外のアーティストマネジメントにも関わる。

堀内真人(KAAT神奈川芸術劇場技術監督) 舞台監督、演出助手を経て、2003年文化庁在外研修員としてパリ及びロンドンに滞在。プロダクションマネージャー、技術監督として、多くの国内外の演劇およびダンス公演に関わる。2008年より神奈川芸術劇場開設準備に携わり、2010年4月より現職。

⑨海外発信・交流を計画・実施する

活動の国際展開を考えることは自らの創造活動の価値を見直す好機であり、新たな活動の糧ともなるものであり、世界への文化的貢献にもつながるものです。まずは国際展開の事例から学びます。

【日時】8月1日(金) 19:00～21:00・2日(土) 10:00～12:00

【会場】**那覇市内**

【講師】**田口栄治**(国際交流基金理事) 昭和56年北海道庁入庁。昭和61年総合研究開発機構へ派遣出向。平成3年より国際交流基金に勤務。平成5年、連合王国及びロシア連邦にて長期海外研修。平成8年および平成20年には、それぞれ在ロシア日本大使館一等書記官、同参事官として外務省へ出向しモスクワにて日露文化交流に従事。平成23年、国際交流基金を退職し、理事に就任。

茂山あきら(大蔵流狂言師) 1952年生まれ。京都在住。父である二世茂山千之丞のバイオニア精神を受け継ぎ、オペラや新劇の企画・演出を手がけるほか、狂言と新作落語のコラボレーション、ベケットの不条理演劇、英語による海外公演など、国境も言葉もジャンルも飛び越えた創作活動を展開中。第31回京都府文化賞功労賞受賞。

下山 久((一社)沖縄県芸能関連協議会事務局長) 沖縄を題材にした作品や国際共同作品など多数企画制作。平成17年から、総合プロデューサー、芸術監督としてアジア諸国・地域のファミリー向け演劇フェスティバル「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」を毎年開催。ATYA/アジア児童青少年演劇フェスティバルネットワーク会議議長を務める。エーシーオー沖縄(芸術文化協同機構)代表。

⑩劇場と技術——その基礎と安全

実演芸術の成立には劇場などの場が必要であり、劇場での公演には危険も潜んでいます。劇場の機構、照明、音響の基本と安全な運用について学び考えます。

【日時】10月7日(火)

【会場】**てだこホール 大ホール**

【講師】**伊藤久幸**(新国立劇場技術部長) 1978年、(株)歌舞伎座内長谷川大道具に入社。退社以降はフリーの舞台監督として、セゾン劇場のピーターブルック演出作品、仲代達矢主宰の無名塾公演等の舞台の他、幕張メッセのオープニングセレモニー進行等を担当。1994年新国立劇場運営財団に入職し、新国立劇場の技術部として活動。2007年より現職。

沖縄芸能史を学ぶ特別集中講座

沖縄の文化芸術を育て発展させていくためには、沖縄の芸能の歴史、固有性を深く理解し、その独自性を強みとして、世界との関係のなかで新たな発展を考えていくことが必要です。全国、そして世界に誇るべき組踊、琉球舞踊、音楽など沖縄芸能の成立と現代までの歴史を学び考えます。

【日時】9月1日(月)・2日(火)

協力：沖縄県立芸術大学

特別講座